

事務局 津田尚美

編集 岸本桂子

市長交渉 実況 報告

葛西よう子

逐次刊行  
14.10.75  
国立女性教育会館  
女性教育情報センター

四月五日、十三時三十分、市役所一階ロビーに集合。住民票や印鑑証明を渡してくれろのを行つたの長イスの後ろの方をしばし貸してもらう。岸本さんの二人の子供達のリンゴのほくぺがみんの中、ニコニコと和やかさを加える。みんなど少々緊張気味で、少々ドレミアム、改ま、っているのが知れ、岸本、た人、葛西、津田、後藤、横尾、小川、門、道上、岸本、隠崎、

まず、どうしても市長氏にいいたい事がある。たうひとつすといふので、岸本さん、夫の転勤と共根こぎにされて、ついてきた妻の如何にして新しい環境になじむかの難しさ、地域のつながりを得る手助けがほしい。門さん、家庭科の男女必修をせひ、隠崎さん、現場ではいいにくい職場の問題（中小企業などではいうとやめざるを得なくなる）解決の場、職場問題の駆け込み寺が欲しい。

その他、軽費老人ホーム（出入り自由の）が欲しい。かし、今回は市長に陳情するのは、人のための一〇番目にテーマをしぼる。そして我々の要求の焦点がぼやけないようにする。その上にキヤンズがあれば個人の意見も述べるという事に全員一致。

そろそろ約束の一時半、三階のオ2応接室へ、まず、いかにスークエアな市の広聴室とか社会課とか本日の我々の陳情に関係のある課長クラスの人、我々と向きあつて着席。本日のメインの発言を受け持つ葛西を中心に我々も上等のひじかけ椅子に坐る。窓からの眺めもよく、家具も落着いた一室、市の幹部というのはいこうゆう所で執務するのかとまずは観察していると、本島市長、一時四十分、にこやかに着席。改めて、我々の陳情の趣旨を述べた文書をさし出し、婦人対策室の設置要望の件を手短かに述べ、かつ昨年6月の市議会に於いてある議員より国際婦人年でもあつた、婦人対策室といったものを市機構の中に生かすべきであるが、という質問に対し、「五十六年度後期に進めたい」との答弁があるが、具体的にはどの位進展しているのかと質問した。これに対し市長「現在、長崎市では、70才以上一殆んど未七人」の人口が急速に増加しつつある。ここに起こる諸問題にまず頭を痛めている。明日どうするかという駆け込み寺はすぐにも設置可能である。時代の交遷により残された人々が生きることにより自治体の仁事が増える。身軽な自治体、財政再建のスローガンの中で、それをどうするか、そういう事全

体を含めて婦人対策室をどう設置するのがよいのか、役所内部の従来からの仕事割り、しきたりを越える機関となること、頭が一杯である市の財政状態の厳しさ、色々、総合的判断を必要とする事、婦人だけが市の対象でない事、全て我々によくわかる。しかし長い差別の歴史の上に今在る我々婦人の現状を何とかする事は必要であり、又行政の手助けがいる。婦人対策室は将来の目標として、まず婦人一〇〇番、そこへの意欲ある職員配置、意欲を実現できるホストをまず我々は望む。既に、大阪府は意欲的に取り組んでいる。又、岸和田勤労婦人ホームの一〇〇番にあたる30名のボランティア、その養成をする講座を市が設置している状況を説明する。市長はこれは既に御存知であった。しかし若年人口の多い産業都市と停滞型の長崎のちがいに於いて語られる。又、社会課長より、ボランティアが市に70名おり、中央公民館で養成講座をしている旨の説明があり、こちらよりその活動のあり方、センターの所在地、講座開講のあり方を具体的に質問し、まだまだ大阪府に比しての実態を知る。

市では、婦人相談は、広聴相談室が受けていて専門の相談員を置いている。その努力は認めるが、広聴という言葉自体なじみにくい（これは市長も同意）上、離婚、生活苦などセッパつまつた相談にはのり得るが、より中ない中産階級の女の悩みもきき、その生活を社会へ向けて振上げる手助けとなり得るものであつて欲しい旨要望し、色々の例を挙げて、今、都市の中産階級

の妻の抱えている問題を述べて理解を求めた。市の広報活動の不足、色々、仕事はしているとしても県、厚生省にまたがたり、各課で別々であつてPRが不足し、情報交換も不足している案をついて、それを統合する窓口の必要について述べた。PRの不足は市長も痛感し、近々市民便覧帳へ市のしている事は何でもわかる。を発行、配布の予定。連絡窓口の必要性もわかつたとの事。2時半となつたので、ひとまず、陳情はこの辺で、又10月頃に一時間との約束。また、やつたりとしておいでの市長に自己紹介から一人一人市に対して持つていく個人の要望を話す。自分が遅れた十分間、きちんと座にいらして、2時40分過ぎ、我々の催促で市長退席。又2回目の我々の陳情の幕は下りた。

市長交渉に先がけて

津田尚美

この陳情のために、県の婦人対策室、県の生活センター、地婦連の小池会長に、岡本、後藤、津田、労働省婦人少年室、長崎分室に津田、葛西。市広聴室へ後藤、津田、葛西で行つて、それらの意見を伺つた事。先進地として大阪府名古屋、岸和田市へ事務局より電話し、早速に各地より色々と大部の資料が送られてきた事。それにより、大阪では女性弁護士中心に作つた

「働く婦人の悩み」の一の巻があり、長崎県長  
年所でも、婦人議員の提案で「婦人協議会」が  
既にあることも知った。  
この陳情のために事前の勉強、情報収集の機会  
を持ち得た事は、又とないチャンスであつた。  
行政、役所というものの働き方、その中で仕事  
をしていく人の努力と挫折感、竟欲的な先進地  
域の取り組みとPRのすばやさ、色々といふ事を  
取りまく情況の一端のメカニズムがみてとれる  
思ひであつた。  
これを肥料に10月に又、市長に会おう。少な  
い波紋を描くにせよ、たゆまず、そして中とり  
を持ってさあやかに石を投げこみ続けよう！  
女が人であることののろしとなる波紋をひろげ  
続けよう！

## 新聞の効用

荻田玲子

最近、雑誌、映画、テレビそして新聞は、明  
らかに「女」をいろいろな視点からみつめ始め  
たようだ。それも彼らが冷やかかし半端だつた「  
翔ぶ女たち」対象ではなく、一般の女というも  
のの中に入り、その考えを追おうとする姿勢が  
みえ始めてきた。その中でも新聞はどうしても  
万人の目にとまつて、世間の通念というものを  
作っていくので、その効用は大きいと思う。  
「女」にも仕事や世の中や人間としての生き方

に悩みや喜びがあるのだと気付き始めたことは、  
大変な進歩ではなからうか、そのうちに例えば  
女銀行員の金銭犯罪の見出しにも、「オールド  
ミス、男に貢いだ末の哀れさ」などに代つて、  
万年筆の事務の要求不満バクハツとか「男女  
差別賃金への復讐」など、が当り前に出るの  
はないかと思われる。又、特集として組まれて  
いくなくても、小さなところにも光る記事が載つて  
いたりするの、もううれしい。例えば「赤ん坊」  
というのは、そのいとしさ、それに因る労働力  
という点で、たいにのつ「翔びたい女」を撃ち  
落とす伏兵であるが、そのことについてある小児  
科医がこう書いていた。「仕事をし続けるため  
に赤ん坊をどうするかということは、それは向  
激しい内なる闘いであつて決して「身勝手」  
とかまして「母性の喪失」などといわれる性  
とは似ても似つかぬ状況である。」「さういふ性  
」今まで「こうだ」とされてきた親子、夫婦の関  
係の組み替へをきちんとすれば、深まりこそす  
れ、崩壊する恐れはない。」と  
男側からこう発言されると、私たちは同志を得  
た喜びで胸が一杯になつてしまふ。だが手放し  
で喜んでばかりいられない面もある。新聞は何  
しろ「公平」を重んじるから、すこい独断と偏見  
に充ちた人の言葉も載せたりする。有名な子  
育てやしつけ、女だけが投稿をゆるされるあの  
ベース、もろもろの人がもろもろの声を載せる  
欄——ここを読む時は眉につばをつけ、しっか  
と心を落着け、うなり声でも発しながら、では  
一体、自分はどうなんだと問いながら読んでい

く態度が必要ではないでしょうか。

## 《今どうしてる？》

★また、女の子でした。

見野 美晴

長崎を離れて半年。昨年11月26日に次女(優子)が生まれて3ヶ月を過ぎ、新しい場所での二人の子供をかかえた生活のリズムにも慣れました。子供たちが女の子ということで、今迄よりも余計に「女性の生き方」が目につきます。これからの彼女たちは、今、専業主婦でいる私とは違った生き方をするかもしれない。そんな生き方をしようとも人生を楽しくむの豊かさを失なうて欲しくない。四季の変化に対する目や音、物を世話する手紙、それから女性をとり巻くこの世の中の諸事情を長い目で見てゆく頭と心を忘れて欲しくない。

いづれにしても「……だから」という言葉にとらわれずに伸びやかに、したたかに、ひたむきに生きて欲しいと自分の怠惰を棚にあげて思っています。

PS.こちら埼玉では、女性の生き方は、現在の状況で良とする方が多いようで、育児、家事の話し域を出ず、楽しいのだけど、何だかものたりない気もしています。この先、どんなふうにかえ続けていけるのか、少々不安ではあります。

が、あせらずに……といきかせつつ、新聞や本から目を離すことなく、何とか細々と学生の頃の友人を頼りに続けてやっつこうか……皆様にはおぼろけかけられそうな思いです。(3月15日記)

★「フランス軍中尉の女」みたよー、

葛西よう子

ビクトリア朝の女が、どうして自立(精神的に)していくかの痛みが身にしみたのです。少し早く生まれすぎた女をメルル・ストリーブが好演。今の私達、やっぱリちゃんとして少し早く生まれすぎた、という連体感にジーンと来つつもスーダラタツタよしよしと気楽にオヨヨ、ヨリツ、ビヤラうと生きています。この擬音は山下洋輔の影響。フピアニストを笑え！と読んでぐうぐう笑った後遺症です。

★「ニュー・ウーマン」

——いい仕事をして豊かに暮らす法——

文化出版局 千二百円 千葉敦子

これから結婚を考えている人、生きがいをお求めている人、すぐおもしろいです。(後藤)

★「おお子育て」黒岩鉄子—教育史料出版会—

自分を育てることに大きなエネルギーを費せる女こそよい子育てもできる気がします。(旭川より磯野)